

# 大商談会で出会った感動の 「ほんまもん」オリブせっけん

京中貿易株式会社

大商談会の展示品には、京都の良識「こだわり」の商品が数多くあります。健康とか福祉とかの切り口で納得させられる品々が……。しかし、そのなかでも京中貿易(株)のせっけんは、語らずとも納得させられるに十分な「ほんまもん」でした。

## 金魚が泳ぐ石鹸水

「ぜひ見に来てね」といわれていたのがつい寄れず、実験開始から4時間以上たったの見学となりました。事前に「無害なのよ。金魚を泳がせても平気なの」とおっしゃる石鹸。期待をもって立ち寄ってみると12月号既報のとおり、白濁の石鹸溶液と変わり立て果てた水槽の中を金魚が元気に泳いでいました。

## 「喜び」を命題とする商社

「猫も杓子も中国投資」の中国ブームのときに取り上げた京中貿易(株)は、合弁・輸出入の切り口。結果としての素晴らしい商品開発などを中心に掲載しました。しかし、そのと

京中貿易(株)は、その名のあらわすように京都に本社をおき、中国との関係を中心として貿易業務を進めてきました。貿易会社として設立以来見つけてきたのは、変わるものと変わらないものです。京中貿易から見て変わるものは経済の変化であり、変わらないものは人の心と聞いていかと思います。中国を見れば、ここ数年の変化と発展は連日の新聞やニュースなどでも伺われます。急速な発展の裏には、ニュースに出てきにくい一面が少しあります。

そのひとつは貧富の差で、貧しい層は1カ月400〜500円(4000〜5000円)の収入であり、富かな一握りの層は、1日1万円(10万円)の収入も驚くに値しないことです。発展の一面としてインフレ上昇も急速で、商店で1枚4000円のセーターを見ればどうしてもアンパランスな感じを受けてしまいます。今年も赤字会社が80%と聞けば、国家がどうして成り立っていくのか素朴な疑問を抱かざるを得ません。このような市場を中心として、京中貿易がいままで進んでこられたのも、またこれから進んでいこうとしているのも、変わらない人の心のつながりがあり、これからも人の関係のなから新しい市場を広げていけると確信しているからです。人との深い理解のなから新しい種が生まれて、また新しいつながりに変わってきました。いわば会社を軸として、パートナーと共に人生を歩んでいく感じがしています。中国では、誰も共に開発して共に発展しようといいますが、これは外国人にとつてなかなか容易なことではありません(しかしそれができるのも中国かなと思ったりもしますが)。共に開発する互いの間隔の差があまりにも大きかったり、考え方が似て非なるものといっているほど異なっていたりします。共に開発にもつていくには、中国人は：といった知らず知らずの思い込みや押しつけをもたずに、難しいことですが、白紙の状態相手の状態をみて、相手の話を聞くことがもつとも簡単で確かな方法だと思っています。同時に綿密な情報が活きてくるでしょう。冒頭に、変わるもの、変わらないものを掲げましたが、変わっていくように見えるその底に、変わらないものは何か、それをじっとみつめていることが、表の変化に惑わされないで、ゆつたりとビジネスを進めていけるポイントではないかと最近感じることです。

京中貿易の貿易商社としての中心的な仕事は、時代の人々の要求に合った商品を提供すること、また隠れたよい商品を市場に合った形で提供



石けん水のなかで元気に泳ぐ金魚  
白濁のため、他の魚群は見えず  
約4時間経過



■会社概要

会社名 京中貿易株式会社  
 代表者 代表取締役 小田きく江  
 所在地 〒604 京都市中京区油小路御池上ル押油小路町254  
 フォルム二条城東602  
 電話075-213-3204 FAX075-213-3202  
 設立 平成3年12月12日  
 資本金 1200万円  
 事業所 中国事務所 (杭州)  
 主な業歴 平成4年9月 京冷医療器械有限公司を合併創立  
 平成4年12月 金鳳818有限公司を合併創立  
 取扱商品 輸入…生糸、生地、絞り、刺繍、服飾など  
 輸出…産業用素材・機械器具、医療・電気・化学機械器具など



中国の高級織物製造工場

きにも医療器具の開発にみられるポリシーがあったのです。  
 そこで、今回の石鹼取り扱いを機に再度、会社理念などについて寄稿をお願いしました。



合併パートナー医療機器会社の社長と



新しい合併パートナーと(中央:小田きく江)

することを求められていると思えます。この方向に沿っていままで進めてきたのが、中国でのもの作り、使い捨て医療器具の製造であり、高級織物製造です。使い捨て医療器具は、まず中国市場をみて、低品質な医療器具から切り換えるために、そして高価な輸入品に対抗できる価格で始められました。高級織物は、日本の製造難から、すでに技術の下地がある地域への製造移転の形で製造が始まりました。どちらも苦しい時期はありましたが、何とかそれを乗り越えて、中国に行くたびに中国スタッフの明るい笑顔が楽しみになってきています。

彼女は大変なアトピー症で、冬になれば顔は黒いブツブツだらけです。食器は手袋をはめて洗っていました。そういえば、ここ2、3年それを見なくなりました。こういうものを必需品というのでは...? それから全員で石鹼と洗剤の勉強です。勉強していくにつれて、一言でいうと利益追求が生み出した大きな組織によって動かされ、CMによって買わされている経済構造がみえてきました。こうしたものが、現在の病気の原因のひとつになっていることもみえてきました。毎日の生活のなかで、気にもとめていなもの、でも誰でも毎日使うもの、それが現在の病気の解決にもつながっていくとすれば、こんなにもいい商品はないと思えてなりません。中国との貿易会社がなぜ日本製の石鹼?と思われる方もありますが、京中貿易がこれからも存在していく意義の中心が「出会う人、出会ったひとを大切に」にあるとすれば、これは商品提供の基本における商品だろうと感じています。地味な商品ですが、これからのものづくりの最初に、この素晴らしい本当の石けんをおいて、使って喜びを感じるもの、楽しくてつい使ってしまうもの、そんな商品を提供できることをこれからの指針にしていきたいと思っています。

小田きく江